

産業経済委員会行政視察報告書

以下のとおり視察の報告をいたします。

1 委員会名及び視察者名

委員長：竹之下一美

副委員長：上坂月夫

委員：永山透、大浦覚、榎木智幸、有田辰二、蔵屋保、児玉優一

2 視察先・テーマ及び日時

■平成 28 年 10 月 5 日（水）14：00～15：30

茨城県つくば市研究学園一丁目 1 番地 つくば市役所 TEL029-883-1111

つくばらしい魅力ある豊かな農業について

■平成 28 年 10 月 6 日（木）13：00～15：00

埼玉県川越市元町一丁目 3 番地 川越市役所 TEL049-224-8811

観光施策について

■平成 28 年 10 月 7 日（金）10：00～11：30

東京都あきる野市二宮 350 番地 あきる野市役所 TEL042-558-1111

森林レンジャーあきる野の森づくりについて

3 視察の内容

5 日：つくばらしい魅力ある豊かな農業について

- ・つくば市農業課概要について
- ・農業政策係
- ・営農林務係
- ・農地係
- ・参考資料「つくば市農業基本計画」概要版
- ・つくば市経済部 農業課 課長 垣内伸之氏 より説明

6 日：川越市の観光振興について

- ・川越市のプロフィール
- ・組織
- ・観光資料
- ・川越市を訪れる観光客
- ・観光イベントの事業
- ・観光環境整備の事業
- ・観光交流の事業
- ・観光PR事業
- ・川越市議会議長 小ノ澤哲也氏 より歓迎のあいさつその後産業観光部観光課の榎元、石坂氏より説明。その後議会事務局の岩田氏に小江戸川越市街地を案内してもらう。

7日；森林レンジャーあきる野の森づくりについて

- ・あきる野市郷土の恵みの森づくりの事業について
- ・あきる野市の地形
- ・あきる野市の森の現状
- ・郷土の恵み構想の策定
- ・人と森との新たな共生の姿の創出
- ・森づくりの基本方針
- ・市内で確認された絶滅危惧種
- ・自然体験イベントの実施
- ・森の子レンジャーの活動

あきる野市議会副議長 戸沢弘征氏 の歓迎のあいさつ

環境経済部長 吉澤圭一氏、課長 大久保文治氏、農村課長 伊藤修氏より説明

4 委員感想等（別紙添付）

5 添付資料

産業経済委員会行政視察報告書（感想等）

委員名 竹之下 一美

1 視察の感想等

スローガンとして「つくば」らしい魅力ある豊かな農業

キーワード 「ひと」「農地」「地域」「新技術」というそれぞれの資源を大切にし今後の農業、農村をどのように活性化させていくのか。4つのキーワードをもとに実現可能な農業施策を展開していくという事で行われている。川越市の観光施策ではインバウンドの取組みとして①外国人観光客への情報発信②観光パンフレットの多言語化。英語・中国語・韓国語・フランス語・ドイツ語・スペイン語・ポルトガル語・タイ語の観光パンフレットを作成、配布。森林レンジャーのメンバーは樹木医等それぞれの資格を持った4名で具体的な活動として①生態系や森林の健全性の調査②沢や滝、巨樹巨木などの資源の掘り起こしなど11項目にもおよび定期的に巡視し、哺乳類、鳥類等の分布や生息の調査を行っている。将来的森づくり「郷土の恵みの森」の実現に向けて取り組んでいるとの事だった。

2 視察の成果及び市政への反映等

・「つくば」らしい魅力ある豊かな農業について

直売所等の支援策として毎年「つくば市農産物直売所ガイド」を作成していて都城市でも取り入れたらいいのではと思った。

・観光施策について

川越市では観光キャンペーンとして小江戸川越のPRパンフレットの配布。平成20年度～21年度にかけてはNHK連続テレビ小説「つばさ」をPRするため大々的な観光キャンペーンを実施されていた。都城市も肉と焼酎のふるさと都城を今後も大々的にPRすべきと思った。

・自然体験イベントの実施について

郷土の恵みの森づくりとして地域と協働で整備した道や市内の山を森林レンジャーと共に歩くツアーの開催が行われています。また「森の子レンジャー」の活動として間伐体験、水生生物の調査。ライトトラップ調査等があり、次の世代の森の守り人となる子ども達につなげる取り組みも行われていて都城市でも考えるべきと思った。

今回の行政視察は台風18号の接近の中で実施しましたが計画通り実施できてよかった。今回の研修を今後の市政に反映できる様努力していきます。

産業経済委員会 視察報告書（感想）

委員名 上坂月夫

1 視察の感想

(1) つくば市役所：「つくばらしい魅力ある豊かな農業について」

つくば市の農業基本計画の基本方針・基本施策に基づき、青年等就農計画認定制度、家族経営協定、六次産業化の推進施策と支援策、直売所等の支援策、耕作放棄地に対する施策等の調査事項に基づき視察を実施した。

つくば市農業の特性・問題点・課題を良く分析して、基本方針に基づき、具体的な重点施策を明確に示して計画期間（平成27年度から31年度までの5年間）に応じた達成目標が設定されて更に目標達成状況を評価・検証するなどの進行管理も実施されていた。

青年等就農計画認定制度は、「つくば地域就農支援マニュアル」を作成し支援している。茨城県県南地区「つくば地域農業改良普及センター」においての市町村別就農率は1位となる成果が出ている。家族経営協定については、平成10年度に「つくば市農村女性活動促進協議会」を設立し、協議会委員を中心に推進して、平成27年度末で189組が協定を締結している。六次産業化の推進施策としては、平成25年度から27年度までプランナーを委嘱し塾方式のセミナーを開催して、技術的な支援の他、パッケージや商品開発に係わる支援を実施している。都市近郊型農業の促進として、毎年「つくば市農産物直売所ガイド」を作成している。農業後継者不足等による耕作放棄地に対する施策については、「グリーンバンク制度」を平成21年度に「市民ファーマー制度」を平成23年度に市独自の制度を創設して、耕作放棄地の解消・抑制策を図っている。

(2) 川越市役所：「観光施策について」

川越市は観光施策について、滞在型観光推進の具体的な施策・観光地と宿泊施設との連携要領、観光施設等とスポーツ合宿等との連携、PR 施策を調査事項として、視察を実施した。

調査事項に対する具体的な施策の回答は無かったが、川越市は第二次観光振興計画の計画期間を10ヶ年（平成28年度～37年度）として、10年先を見据えた将来展望のもと、平成32年度までの5年間に重点的に推進する施策を位置づけている。

計画の基本方針を「新たな観光を創りだそう」「外国人が一人でも楽しめる川越を演出しよう」「安心して観光を楽しめる環境を作ろう」「市民の視点で観光まちづくりを進めよう」の4つの基本方針に基づき、具体的施策(項目)を明確に示して計画を推進している。

観光振興の推進は、行政だけでは対応できないため、市・観光協会・商工会議所・観光関連団体・市民が各役割を認識し、各主体間における協働と連携による取り組みを進めている。

(3) あきる野市役所：「森林レンジャーあきる野市の森づくりについて」

あきる野市は、森林レンジャーの役割、森林伐採等に関する事項、バイオマス発電に関する事項、有害鳥獣対策に関する事項を調査事項として、視察を実施した。

あきる野市は、都心から約40～50 Km 圏内に位置し、市全体の60%が山岳・森林地帯という特質から、都会と自然環境・地域資源を活用した魅力を発信するため、全国から公募した4名の「森林レンジャーあきる野」を発足して活動している。

森林伐採後の植林等については、現在のところ大きな課題となっていなかった。バイオマス発電に関する事項は、あきる野市バイオマスタウンにおける木質バイオマス利用構想に基づき、調査検討中の段階である。有害鳥獣対策については、地域の特性に応じた補助等を実施している。

2 視察の成果及び市政への反映等

(1) 成果

ア 「つくばらしい魅力ある豊かな農業」について

- (ア) つくば市独自の財源を活用した新規就農者経営支援事業（国の制度、原則45才未満の認定基準を45才～65才に拡大して経営の安定化を図る）
- (イ) 青年等就農計画認定制度（地域就農支援マニュアルを作成し支援している）
- (ウ) 家族経営協定（農業農村男女共同参画社会推進委員会の設立）
- (エ) 六次産業化の推進施策（プランナーを委嘱した塾方式のセミナーの開催）
- (オ) 耕作放棄地に対する施策（グリーンバンク制度・市民ファーマー制度）

イ 川越市の「観光施策」

- (ア) 川越市の多くの歴史・文化的資産（蔵造りの町並み・時の鐘・菓子屋横町川越城本丸御殿・蔵造り資料館）を重要な観光資源として活用している。
- (イ) 平成32年の東京オリンピック開催を見据えた観光施策。
- (ウ) 歴史・文化の景観を維持するための施策（電柱の除去・地下配線）
- (エ) 観光推進体制（市行政・観光協会・商工会議所・観光関連事業者・市民の連携）

ウ 「森林レンジャーあきる野市の森づくり」

- (ア) 森林レンジャーの役割・活動状況
- (イ) バイオマスタウン構想

(2) 市政への反映事項等

ア つくば市：「魅力ある豊かな農業施策」

- (ア) 市独自の財源を活用した新規就農者経営支援事業
- (イ) 青年等就農計画認定制度
- (ウ) 家族経営協定
- (エ) 六次産業化の推進施策
- (オ) 耕作放棄地に対する施策

*細部の施策内容については、提供資料による。

イ 川越市：「観光施策」

- (ア) 観光環境整備の事業（観光用公衆トイレ・ポケットパーク・観光サイン・駐車場）
- (イ) 大きなイベント（オリンピック・世界大会・国体等）に対する観光施策
- (ウ) 観光振興推進体制（市行政・観光協会・商工会議所・観光関連事業者・市民の連携）
*細部の施策内容については、提供資料による。

ウ あきる野市：「森林レンジャーあきる野市の森林づくり」

- (ア) 森林レンジャー・森林サポートレンジャーの設立・活動
- (イ) バイオマスタウン構想（システムフロー図・利活用推進体制のフロー図）
*細部の施策内容については、提供資料による。

3 その他

*都城市政に反映すべき事項として、「つくば市・川越市・あきる野市」の各施策等の参考資料を、農政課・六次産業推進事務局・商工観光部・みやこのじょう PR 課・環境森林部・森林保全課に提供する。

産業経済委員会行政視察報告書（感想等）

委員名 有田 辰二

1 視察の感想

① つくばらしい魅力ある豊かな農業について（茨城県つくば市）

青年等就農計画認定制度を改良普及センター管内の連携し「つくば地域就農支援マニュアル」を作成し支援にあたっている。就農率は地区内で1位になっている。青年就農給付金（国補助）受給者43名給付支給額・23,625,000円。28年度49,500,000円になっており、都城市と比べ（16名）多い。新規就農が多いのはあるが国の制度の適用を自ら狭めているのではと感じる。今後つくば市の例を再度確認し生かしていきたい。

つくば市は技術者がたくさんいるまちです。そうしたひとをどうまちづくりに生かすかという問題意識をもっており、そうした観点も学びました。

② 観光政策について（埼玉県川越市）

これまで東京都青梅市・鳥取県境港市の観光政策を学んできたが、共通することは地元にあるもの、人財をどう生かすかだと改めて学んだように思う。川越市の場合、昭和の時代・洋風化の流れの中・土蔵づくりの店を隠すようにしていたものを、逆にそれを売りにして成功している。都城の場合、全国的知名度の高い「釣りバカ日誌」を生かす、高千穂の山の修景をもっと生かして農村リゾートなどを進めることが必要だと思う

③ 森林レンジャーあきる野の森づくりについて（東京都あきる野市）

郷土の恵みの森づくりをより具体的に進めるための専門集団の活動です。当地は首都圏のキャンプなどレジャー基地にもなっています。子どもたちに生きた学習として素晴らしい取り組みです。専門員は公募し集めています。子どもは小学生時代までの経験が原体験として重要です。都城市で育っても森で遊ぶ経験・川で遊ぶ経験が少なくなっています。生きる力・ふるさとを思う感性を育てるのに大事な事業です。都城でもぜひ取り組むことができればと思います。

産業経済委員会行政視察報告書

児玉 優一

1 視察の感想

・つくば市…「つくば」らしい魅力ある豊かな農業について

近年、農業従事者の高齢化等による担い手不足や耕作放棄地の増加等で農業を取り巻く環境が一層深刻な状況に直面しているうえに、都市化が進む現況にどう向き合い、農業・農村の



あるべき姿や、健康・安全志向などの多種多様な消費者ニーズにどう対応していくかなど、農業施策の新たな指針として平成27年度から31年度までの5ヶ年計画として「つくば市農業基本計画」が策定されました。

つくば市の農業も他地域と同様に、後継者不足や耕作放棄地の増加が進んでおり深刻な状況になっています。

そのような中「つくば」らしい魅力ある豊かな農業をメインテーマにいくつかの項目ごとに積極的な取り組みがなされています。

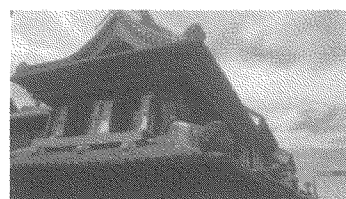
その内、新規就農者経営支援事業においては、国の制度は原則45歳未満の認定新規就農者を対象としているのに加え、つくば市は独自財源を活用して、対象者を45歳から65歳未満にまで拡大した積極的な取り組みもなされています。

また、6次産業における新商品開発などの基礎・手法を学びたい人を対象に、6次産業化育成塾（初心者向け）も開講してこられています。

これらの説明を聞きながら農業従事者の高齢化は深刻な問題ではあると感じたが、茨城県自体の農家戸数が全国2位で、農業産出額も全国2位であるなど、全国屈指の農業県としての地位を占めている状況であり、東京都中央卸売市場へ近いという素晴らしい地の利を持っており、新たな農業への希望が持てると感じました。

・川越市…観光施策

川越市は江戸時代から船運や川越街道を通じた江戸との交流により発展してきた町であり、蔵造りの町並みなど歴史的な観光資源に恵まれたうえに、都心との交通アクセスにも恵まれた、誰でも気軽の立



ち寄れる観光地であります。

町中は蔵造りの町並みを中心に、菓子屋横丁、大正浪漫夢通り、中央通り「昭和の街」などが周遊コースとなっており、また散在している川越城本丸御殿や蔵造り資料館とのアクセスも整備されていました。

また、町中に無料の休憩所が整備されており、高齢者や家族連れに喜ばれているようでありました。あわせて、観光の目玉である川越まつりを紹介する川越まつり会館では山車の常設展示や日曜・祭日の囃子の実演等を通して川越のまつりを体験することができ、素晴らしい取り組みだと感じました。

・あきる野市…森林レンジャーあきる野の森づくりについて

森林レンジャーあきる野とは、あきる野市が取り組んでいる郷土の恵の森づくりをより具体的に進めるためにハローワークを通じて全国から募集した4名の専門集団です。



主な活動内容としては、生態系の維持・管理及び整備状況や健全性の調査・監視。滝や沢、巨樹巨木、地質学的な見どころなど、森林内外の地域資源の掘り起しなどに取り組んでいます。

また、町内会・自治会が行う尾根道や昔道の補修、景観の整備等について、事前調査から計画立案・作業実施に至るまで、地域と協働で実施しています。

それらの活動のなかで絶滅危惧種の実態調査と保護活動に取り組む反面、特定外来種の駆除など有害鳥獣対策にも取り組んでいます。

あわせて、子供たちに自然の良さと自然を守る大切さを実体験させる取り組みとして、森の子コレンジャーという事業にも取り組んでおられ、まさに世代を超え地域一体となった取り組みなんだと感じました。

2 視察の成果及び市政への反映

つくば市では「らしさ」にこだわった農業対策に取り組んでおられましたが、都城市でも6次化を含めこれまで以上に農畜産物のブランド化を進めながら、都城らしい作物、都城らしい商品開発を研究しながら、若者がもっと農業に魅力を感じ、今後就農者がもっと増えるような施策を構築する必要があると感じた。

次に、川越市はもともと歴史的にあった建造物等を保護・整備することで観光地化してきたもので都城市とは町の形態が違うためすぐに参考

には出来ないが、川越は行政と地元の商店街の協力体制がしっかりしているように感じられた。やはり、地域の住民の理解と協力がなければ何事も進まないと思うので、都城市では現在取り組んでいる中央地区の再開発において、まずは市民が足を運びたくなるような街づくりのために今回の視察を活かせないか再考してみたい。

最後にあきる野市に関しては、全国でも珍しい取り組みであり、生態系の調査や監視は都城市においても必要不可欠だと思う。都城市でも外来魚が異常繁殖したことにより在来魚が激減していることや、有害鳥獣による農作物への被害は年々深刻になって来ている。

また、森林伐採後の再造林率が下がって来ており、治山治水の面でも大きな課題を残している。

以上のような点からも、広範囲における正確な実態把握は早急に必要だと考える。あきる野市の担当者の話では、レンジャー募集には日本全国から応募があったようで、レンジャー希望者確保は容易だと思えるので今後我々も研究しながら行政への提言が出来れば良いと思った。

産業経済委員会行政視察報告書

委員名 榎木智幸

1、視察の感想

茨城県つくば市においては、①「つくば」らしい魅力あふれる農業について②青年等就農計画認定制度について③家庭経営協定についてなどの調査項目で研修をさせていただきました。

魅力あふれる農業については「都市農村交流推進事業」を行っておられ市内の親子を対象に農業体験を通して自然の恵みや豊かさを実感してもらい生産者との交流で感謝の心を育むイベントなどを年間とうしておこなっておられ、年間 244 名の参加者で交流が進められていた。成果も上がりながら周知方法・参加費値上げ・農家への負担増・駐車場の問題など課題も示された。新規就農支援については、国の 45 歳までの補助金制度をつくば市独自で対象を 65 歳未満に拡大して行っていた。新規就農者は年間 2 名ほどではあるが、青年就農給付金受給者は 28 年度 9 月現在 43 名となっているが利用者は減少していた。六次産業化への取り組みや家畜・園芸への取り組みも紹介いただいた、最後に「グリーンバンク制度・市民ファーマー制度」の紹介がありました。農業従事者の高齢化や農地の資産価値が上がり耕作放棄地の増加に繋がっているため解消のため、農家同士の農地の貸し借り制度と小規模で耕作しにくい場所は「市民ファーマー制度」として一般市民（非農家）へ貸出している。現在貸して 440 件に対し 79 件の契約者となっていた。

2、視察の成果と市政への反映

新規就農者を国の制度だけに頼らず独自で事業を推進されておられて就農人口が減少する中、本市も見習うべきと感じた。農家の魅力を伝えるための事業は、農家負担が大きく感じたので本市であれば、南九州大学などとさらに連携して園芸の学習機会の拡充を行い農業の良さと魅力を伝える事業を行政が支える形がいいと感じた。六次産業化や畜産については本市の方が進んでいると感じた。つくば市は「つくばエクスプレス」の開通に伴って農地の資産価値が上がり、本市の抱える課題と基本的な違いを感じた。「市民ファーマー制度」もあったが、本市としては農家所得の向上につながる施策への取り組みをさらに強化していくべきと感じた。

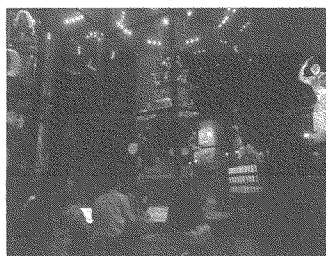


1、視察の感想

埼玉県川越市の観光振興について研修を行ってきた。産業観光部・観光課から説明を受けたのち現地の取り組み状況について視察をした。担当者から観光課 13 名と中心的な役割を行っている公益社団法人小江戸川越観光協会など川越の観光を支えている多くの団体の紹介があった。川越市には県内有数の商業地でありながら歴史的文化遺産が多く残っており、それらを活かした観光が行われており多くの人でにぎわっていた。蔵造りなど身化しながらの商家や街並みが残っておりそれに加えて、電線の地中化や歴史博物館など公共施設が加わり賑わいを見せていた。特産品はサツマイモや唐棧という織物など「小江戸川越ブランド」の認定制度をもうけてピーアールとイメージアップにつなげていた。大河ドラマ「春日の局」の効果もあり年間で 650 万人を超える観光客が訪れているとのことだった。大きなイベントとして「川越祭り」があり山車の曳きまわしなどがあり、それぞれの地域にある山車が 1 億円以上かかっているとのことだった。

2、視察の成果

行政職員の取り組みもさることながら市民団体や地域自治会が観光のまちづくりのために協力体制が整っており組織の充実を感じた。本市でも多くのイベントが行われている、市民一体となった組織の在り方・連携、観光としての取り組みを考えさせられた。また、それぞれの自治会が持っている山車が 1 億円以上することには祭りにかかる市民の思いの強さを感じた。本市も独自の歴史文化を大切に活かしオンリーワンの観光の在り方を模索していきたい。



1、視察の感想

東京都あきる野市では「森林レンジャーあきる野の森づくり」について研修を行った。市域の6割以上を森林が占めていて古くから林業が基幹作業であったが、採算性や従事者の減少・需要の低下など近年森林への関心が薄れてきていることを受けて、森と人の関係を見直し新たな共生の創出を行い森の価値を再認識するため「郷土の恵みの森構想」を策定された。その一環として「森林レンジャーあきる野」が組織されており、森林保全や自然環境活動に関する知識と情熱を持つ人を全国から募集して4人のメンバーで活動していた。メンバーは森林の育成活動や自然環境教育、動植物調査、フィールドワークなど専門家集団として活動していた。レンジャーは具体的に生態系の調査や沢・滝・巨木・昔道・景観整備・市内の4年生から6年生までの「森の子コレンジャー」と一緒に調査研修を行っていました。また、有害鳥獣対策については、各種補助金をもって対応しており捕獲数はサル4頭、イノシシ10頭、ハクビシン84頭、カラス39羽とのことでした。

2、視察の成果

本市も森林面積を多く抱えており、次世代の子供たちに森林の持つ役割や必要性、生態系のことなど森の魅力に触れさせる機会を持つことの大切さを感じた。自然に触れ合う機会が少なくなっているだけにこうしたレンジャーの活動は必要性を感じた。あきる野市では木材価格の低迷を受けて伐期が来ても間伐程度に抑え、木を大きく育ててから価値を高めてから販売していくことを方針と掲げており、経済林としての位置づけが本市とは違いを感じた。本市も林業の盛んな街であり森林の持つ多面的な活用を重視しながら永続的に生かされていくことを望みたいと思った。有害駆除については、本市の方がはるかに多くなっており参考にならなかったが、共通の課題をもっておられると感じた。



平成28年 産業経済委員会行政視察報告書

「つくば」らしい魅力のあふれる農業について

委員名 永山 透

1、 視察の感想

農業の現状は高齢化、担い手不足、耕作放棄地の増加や、TPP 問題など環境が厳しさをましている。そのため、つくば市においては農業・農村のあるべき姿と将来目指すべき方向性を示すために「つくば市農業基本計画」を作成されている。5年ごとに計画を見直し、就農人口を増やす計画となっている。第一次産業の就業者は3.1%・3,133人であり、減少傾向である。農家の主な作付は「いちご果樹農家」「芝栽培農家」「コメ生産農家」が多くを占めている。首都圏に近く、サイクルの早い品物を販売することにより、所得の向上が図られ、後継者は確実に育っているとのことある。

また、都市農村交流事業を推進して、自然のめぐみを実感してもらい、農業への理解と興味を持ってもらう事業は、27年度は244名の参加者があり、今後の就農に意欲を示してもらえるきっかけになればとの思いもあるようだ。

また、農家を大規模農業者・小規模農業者と区別して支援策を行っており、本市においても興味深い事項であった。

2、 視察の成果及び市政への反映

どこの地域でも農業のおかれている現状は同じような状況である。「つくば市」では青年就農給付金事業を活用しての受給者が43名と多く、本市でも活用拡大を図ることが必要である。

また、グリーンバンク制度で遊休農地の活用を図っている。農地を貸したい人・借りたい人がグリーンバンクに登録して、市役所も話し合いに参加して、農地の再利用を図っており、耕作放棄地の減少につながっておりとのこと。

「つくば市」の農業形態は本市とは相違点は多いが、儲かる農業を目指すことは後継者確保につながることは言うまでもないが、地域の特産を育てていくことも重要であることが理解できた。

平成 28 年 産業経済委員会行政視察報告書

川越市の「観光施設」について

委員名 永山 透

1、 視察の感想

埼玉県中央部にあり、面積 109 平方キロメートル、人口 35 万人で東京都心に近く交通の便が良い地勢となっている。観光資源も豊富であり、「蔵造の街並み」は江戸情緒を残す町並みとして、多くの人々に親しまれている。蔵造りを核として「菓子屋横丁」「川越城本丸御殿」「蔵造資料館」が集合して、観光客が散策しながら買い物をして楽しんでいる。また新たに整備した観光施設として、「小江戸蔵里」「仲町観光案内所」「鍛冶屋広場」「川越まつり会館」「市立美術館」「旧山崎家別邸」等が整備されて、観光客の増加につながっているとのこと。

平成 27 年度の観光客数 664 万人で増加傾向である。関東地区より 80%、女性客が 60%、60 歳以上が 60%を占めている。

また、半日観光が 50%と多く宿泊観光を増やすことが今後の課題である。蔵通りでは道路幅員が狭いため、交通事故の心配が懸念される。

2、 視察の成果及び市政への反映

古い街並みをいかに大事に残していくのか。宿泊する観光客を増やすためのイベントを企画するのが課題と考える。

都城市においては中心市街地の再開発が行われるが、近在する商店街との連携・協力なくして観光客・人の往来の増加は見込めないと思う。

行政・市民・市街地の商店街が一体となって、「人・観光客」を増やす努力を続けていきたい。又、閉鎖されている商店を再開発して店舗数を増やすことは、近畿つの課題と理解できた。

平成 28 年 産業経済委員会行政視察報告書

「森林レンジャーあきる野市森づくり」について

委員名 永山 透

1、 視察の感想

東京都の北西部にあり、面積 73 平方キロメートル、人口 81,000 人の町で都心まで 40 キロメートルと近く面積の 60%が山林である。

木材の価格低迷が続きその結果、山林が荒廃して機能が失われてきている。そこで将来にわたって森のめぐみを享受できるように平成 22 年「郷土のめぐみの森構想」を策定した。この構想を進めていくために森林保全・自然環境活動に知識・行動力を持った 4 人を公募して、「森林レンジャーあきる野」が組織された。彼らの活動内容は「生態系の調査」「森の子レンジャーの活動指導」等 10 項目にわたっている。

結果、町内会、自治会等の参加により屋根道の整備、昔道の再生等に積極手に参加して結果を出している。また、自然体験等を実施、森の子レンジャーにて子供たちと一緒に活動を実施してリーダーを育成している

2、 視察の成果及び市政への反映

森林面積が 4,397 ha であり、その森林を 87 区域に分割して、路網の整備・地域の実情により造林、保育、伐採、木材の搬出を一体として効率的に行うように整備計画を立て、計画的に進めようとしている。

計画のための調査は「森林レンジャーあきる野」が中心となり、現況調査を行い、地図上に落としとしてある。これは本市にとっては市有林の整備計画としては重要なことである。ただし、都城市全体の森林整備計画ではすべての森林の調査等に時間と人手がかかり、利用できないのではと思われる。しかし森林の持つ水源涵養、災害防止等の多面的機能を子供たちに勉強してもらおう「森の子レンジャー隊」は森林の多い本市にとっては、十分採用できるものと思われる。あきる野市では 23 年より皆伐は行わず、間伐だけが東京都の補助事業を利用して行われているとのことで、地域性を感じたところである。

産業経済委員会行政視察報告書

委員名 蔵屋保

1 視察の感想

「つくばらしい魅力ある豊かな農業について」

つくばエクスプレスの開通や、首都圏中央自動車道の延伸などで、東京のベッドタウン化の進むつくば市も土地は農地としての生産活動の場としてではなく、資金的価値のある物として捉えられて行く中、農業を自然体験の場や新規就農者の支援や6次産業化の取り組みなどを行い、何とか「つくばらしい農業」の基盤を持続させようと、行政の努力が続けられていた。

「川越市の観光施策について」

小江戸川越の「蔵造りの町並み」や「昭和の駄菓子屋横丁」のまちづくりと「川越まつり」に取り組み年間660万人の観光客を集めるその魅力は地域の自主組織に依る住民主導型の観光地づくりの結晶であり本来あった歴史と伝統を生かした本物のまちづくりであり、活気に溢れた商店街は今後ますます集客力を増やす要素を持っている事をつくづく感じた。

「森林レンジャーあきる野の森づくりについて」

東京の最西端奥多摩町に隣接するあきる野市の「自然の恵みの森の利活用」への取り組み、特に4人のメンバーで構成される「森林レンジャーあきる野」を中心とした森の生態系や森林の安全管理、森の子コレンジャー活動への協力など、次世代の森の守り人育成に取り組むことがこれからの大都市東京の中の森林の持つ役割の上で、大変重要な部分である事を行政と関係団体が一緒に取り組んでいる。美しい自然を守り、それを生かし実践していく姿勢は日本の森を守る上でも、次世代に繋げる上でも非常に大事である。

2 視察の成果及び市政への反映等

*つくば市の取り組みについて、

つくば市における今後の農業、農地の有効活用については、環境は違っているものの、

都城市の農業問題の危惧される農業従事者の高齢化や後継者不足による、耕作放棄地が増える事と、状況は同じでありこういった農地の有効活用は喫緊の課題であり、つくば市の取り組む耕作放棄地の解消を目的として、担い手農家や新規就農者、企業等に対し農地を仲介、斡旋する「グリーンバンク制度」や小規模農地を一般市民に貸し出す「市民ファーマー制度」は農村の活力と魅力を引き出す手段としても、大変有効で都城市でもそのまま活用できる取り組みであり、都城らしい部分を更に研究し、提言できるのではないかと考える。

*川越市の取り組みについて、

川越市は元々もっていた歴史と文化遺産を今日に残した先人の意識を引き継ぎそれをさらに、現代の観光資源に活用している、歴史や伝統を大事にし残して行くことの重要性については、後世になって気付く事であり、引き返すことは出来ない、その点都城市では、町並みなどで、過去からの取り組みはほとんど感じられないのは残念である、しかし、伝統文化や盆地特有の資源を生かしたものを観光に繋げることで、外ではまねのできない、地元には居ては気付かない独特のまちづくりも可能性としてはあると思う、その為には、「よそのもの、わかもの、バカ者」、の声を聞きながら本気になって取り組む必要を感じる。

*あきる野市の取り組みについて、

あきる野市は大都市東京の中で、少ない森林に市の三方を囲まれた東京の最奥地に近い自然豊かな位置にあり、東京に残る少ない森林をいかに残しながら有効に活用し後世に残して行くかを位置的な責任として捉え、色々な取り組みに積極的に取り組んでいる、特に「森林レンジャーあきる野」を組織し、森についての専門的な活動は市民や後世を担う地域の子供達にとって、大きなインパクトと森の持つ魅力や役割を学ぶ上で大変重要な役割を果たしている。

都城市も四方を山に囲まれ、林業の盛んな地域として、もっと森林について学んで、魅力、役割、を多くの市民や子供達へ伝える手段を考える上で専門の組織の重要性を訴えて行かなければならないと思う。

産業経済常任委員会 視察報告書

委員名 大浦 さとる

1. 茨木県つくば市 視察日 平成 28 年 10 月 5 日 (水)
調査項目 「つくばらしい魅力ある豊かな農業」について

視察感想

市中心部をはじめつくばエクスプレスの開通に伴い沿線市街地などを中心に、さらに都市化がすすんでいる状況で、農業・農村のあるべき姿などどう対応していくか。将来目指すべき方向性や実現方策を明確にした農業施策の新たな指針として「つくば市農業基本計画」を策定され、平成 27 年度から 5 年間とし取り組んでいる。現状は農業体験や直売など都市近郊型農業として新たな農業ビジネスの取り組みも活発化している、と説明がある。



基本方針に①「ひと」の育成②「農地」の保全③「地域」の活性化④「新技術」の導入と4つのキーワードでそれぞれの資源を大切に活性化させていく、実現可能な農業施策を展開していくものである。また最終年度の目標を決め①担い手を 30%以上増やす②直売所の売り上げを 50%以上増やす③耕作放棄地を年間 10ha 以上解消する④都市農村交流体験者を 2 万人以上にする⑤産学官が連携した新しい農業の構築を目指す。とある「つくば地域就農支援マニュアル」を作成し国の制度に基づいての支援のようです。「認定農業者 212 経営体・青年等就農計画認定制度・家族経営協定・6 次産業化の推進・都市近郊型農業の促進・高齢化等による担い手不足の対策」細かく対応できるような方法をとっておられ、事業を進められている。

市政への反映等

都城市においても、少子高齢化による農業従事者の減少や中山間地域などにみられる非耕作地が多く、基幹産業の農畜産業の推進を図るための施策を取るべきではないだろうか。基本計画をたてての取り組み、また、農業に興味のある方々を全国に募集し都城に移住していただくようなシステムづくり、そして移住者に対しての何らかの形で助成できる体制や、高齢化によって農業を辞めていかれる方々や、亡くなられた方の家や農地など農業をやりたい方々へ貸出、個人的な問題は出てくるかもしれないが、過疎化と空き家対策の一つとして利用できる施策、地元特産品などの開発販売(6次化へ)など、都城市でも多く販売されているが、市として多くの方々に周知できるようなPR方法を検討し販路拡大になるような取り組みなど、ぜひ検討していただきたい。また、担当される職員の他市などへ視察研修も必要ではないだろうか。

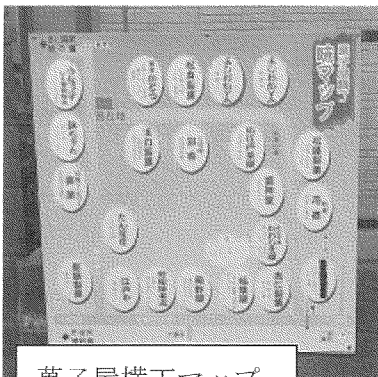
2. 埼玉県川越市

視察日 平成 28 年 10 月 6 日 (木)

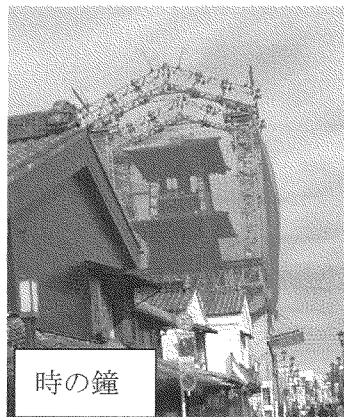
調査項目 「観光施策」について

視察感想

NHK連続テレビ小説「つばさ」の企画など、永い歴史と伝統を活かした町並みを観光として取り組みされている。土蔵造りの商家が多く残り江戸情緒が観光を浴びるようになった。また、まちに時を知らせる時の鐘は、シンボルタワー(現在は4代目)として認知されている。他には、菓子屋横丁に懐かしい味と雰囲気を出している店舗が20数件並んでおり、人気観光スポットになっている。蔵造り資料館では見学できるようにしており、山車の展示も合わせてされており川越まつりが10月第3土・日に毎年開催されその時は、各自治会の山車が曳かれるようで、一大イベントにもなっている。その他、季節ごとの行事などくまれており、それぞれ「都市景観百選」・「残したい日本の音百選」・「かおり風景百選」など選ばれており、観光として事業の取り組みが進められ年間を通じての取り組みがなされている。



菓子屋横丁マップ



時の鐘



蔵造りの町並み

市政への反映等

都城市の観光施策としてどう取り組んでいくのかが課題であると思われる。川越市のように古くからの町並みであれば、すでに取り組んでいるのではと思われる。では、どうすればいいのかとなるが、私的な意見だが、今ある観光地を活用し集客できるかではないだろうか。都城市の観光地では、どうも通りすがりで見るためのものでしかなく観光客に来ていただいて市の特産品や民芸品など買っていただくためには、「菓子屋横丁」や「うまいもん横丁」みたいな食事処など商工会、観光協会等の協力などを得てそれぞれの観光地で特色あるものを提供する。また、川越市はインバウンドの取り組みで観光パンフレットの多言語化され8か国語のパンフレットを作成し、配布されている。観光客の対応として必要なことだと思う。そうすることで、観光客の集客にもつながるのではないかと思える。

3. 東京都あきる野市

視察日 平成 28 年 10 月 7 日 (金)

調査項目 「森林レンジャーあきる野の森づくり」について

視察感想

あきる野市は、市域面積の約60%が森であり、うち人工林の面積は市域の森の75%がスギ、ヒノキ主体の私有林とのこと。林業採算性の低下、林業従事者の減少、エネルギー資源としての需要の減少など人と森との関係が変化していく。そこで「郷土の恵みの森構想」を策定し森の荒廃が進むことのないように、みんなの「共通の財産」としてその価値を再認識することの説明をうけた。森づくり(利活用)の基本方針4つ

- ① 森の多面的機能を高める環境の森づくりを進める。
- ② 森の価値を高め、持続的に利活用する。
- ③ 森の魅力を高め、伝えていく。
- ④ みんなで森づくりを進める。



そこで、この事業を進めるために、知識と情熱、行動力を持つ人を全国公募し、4人のメンバーで組織し、森づくりなどの活動を開始したと伺った。「森林レンジャーあきる野」の組織の活動は11項目に分けてあり、市内の森を定期的に巡回し生物調査の分布や生息調査、滝や沢また巨樹・大木の調査なども実施している。さらには市民や企業、団体のボランティア組織「森林サポートレンジャーあきる野」を組織した方々のお手伝い(森林ルートを整備など)をされている。また、次の世代の森の守り人となる「森の子コレンジャー活動」として毎年子供たちを募集し(間伐体験、ライトアップ調査、水性物の調査などキャンプをした活動も実施している。

市政への反映等

「歩きたくなるまち 住みつづけたくなるまち」を将来像としたあきる野市環境基本計画を進めておられ、バイオマスタウン構想を位置づけることにされている。都城市においても地形的に周囲を山々に囲まれた盆地でもある。今、木材需要の低迷、後継者不足等様々な問題がかかげられ豊富にある森林資源の活用や、適切な管理が十分できていない状況だと思える。自然豊かな環境を活かした取り組みによって市民の理解を得ながらまた、市民と一体となって美しい森林づくりを進めることで林業振興や観光振興などにつながるものではないだろうか。あきる野市の取り組みも参考になると思える。